

統計スポット情報

No. 116

H18. 3. 31

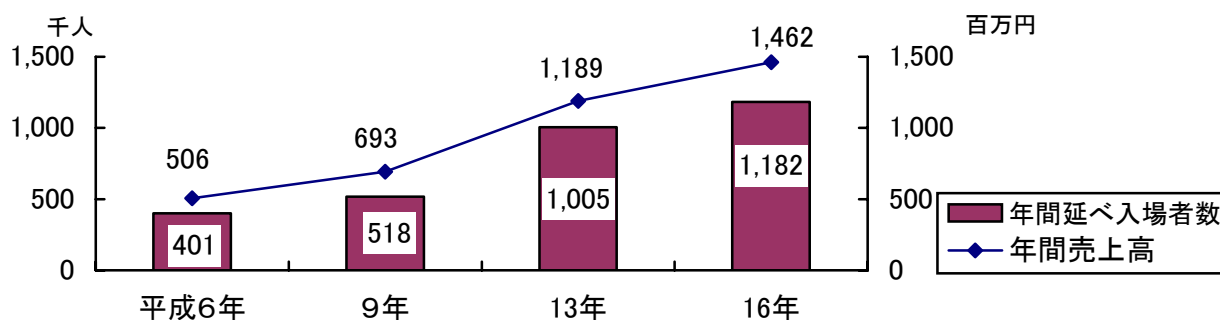
福井県総務部政策統計室

— 福井県の映画事情 —

今年に入り県内では、アカデミー賞受賞作「クラッシュ」、邦画の話題作「県庁の星」などが上映されています。テレビの大型化、DVDの普及が進んでいる中で、映画館の状況を「平成16年特定サービス産業実態調査報告書・映画館編—経済産業省公表（H16年11月1日調査）」からみてみました。

県内の映画館は7館(33スクリーン)で、年間売上高14億6,200万円と、前回調査(平成13年)に比べ23.0%の大幅な増加になりました。年間延べ入場者数も1,181,539人と17.5%の増加になりました。

年間延べ入場者数と年間売上高の推移

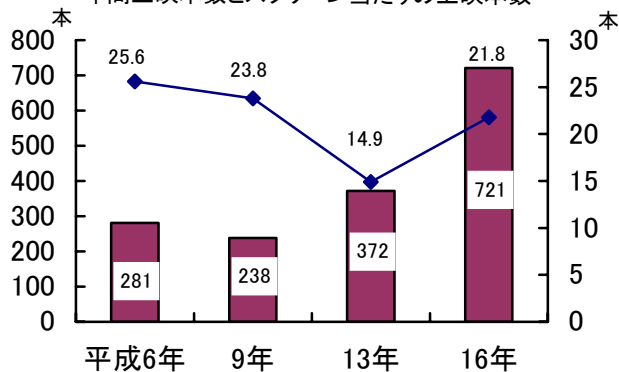


これを上映本数からみると、年間上映本数は721本、前回調査に比べ349本増(206.6%増)で、前回調査に続き増加となりました。

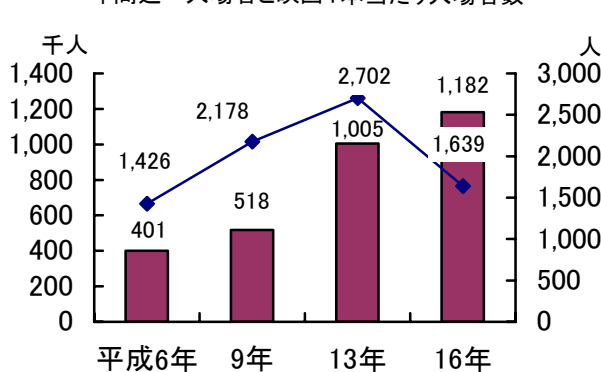
これは、郊外などに新規に立地したショッピングセンターに、シネマコンプレックス方式(注)の映画館が新設され、スクリーンの数が増えたことや1スクリーン当たりの年間上映本数が21.8本と、前回調査の14.9本に比べ6.9本増加したことによります。

しかし、映画1本当当たりの年間延べ入場者数は、1,639人と前回調査に比べ1,063人の大幅な減少に転じています。これは、シネマコンプレックス方式の映画館は座席数を小規模のものにシフトし、収容能力が減少したことも一因と考えられます。

年間上映本数とスクリーン当たりの上映本数



年間延べ入場者と映画1本当当たり入場者数



(注)シネマコンプレックス方式とは、一つの建物で複数のスクリーン(通常6以上)を設置し、かつ、入場券売場、売店、映写室等を集約化して共有する複合型映画館システムをいいます。